

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 3-08	平成26年度第10回すみだ環境共創区民会議		
開催日時	平成27年2月19日(木) 18時30分から20時08分まで			
開催場所	墨田区役所12階 122会議室			
出席者数	【委員16人】 阿久沢委員 池田委員 宇田川委員 笠貫委員 久保田委員 小木曾会長 佐野委員 清水副会長 永岡副会長 野島委員 本間委員 松本委員 森下委員 柳委員 横井委員 渡辺委員 【事務局3人】 環境保全課長、環境管理担当主査及び職員			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	傍聴者数	1名	
議題	1 すみだ環境共創区民会議 平成25・26年度活動報告書(案)について			
配付資料				
会議概要	<p>1 すみだ環境共創区民会議 平成25・26年度活動報告書(案)について</p> <p>事務局から、すみだ環境共創区民会議 平成25・26年度活動報告書(案)について説明があり、意見交換を行った。</p> <p>また、会長より、第9回の定例会で発表を行った提言の取りまとめについて、文書の内容の確認を含め、班ごとに発表をお願いする旨の説明があった。</p> <p>(発表の主な意見等)</p> <p>18ページ、6の「すみだ打ち水ウィークの参加」の3行目に誤字。「打つ水」「打ち水」9の提言の取りまとめについて、各班から発表をお願いします。先ず、「緑」からお願いします。</p> <p>緑の班の提言は、「地域でそれぞれの役割を持って連携し、少しずつでもできるところから緑を増やしていこう」です。一番の問題点は、緑を増やす場所が少ないこと。また、区民の意識が足りないこと。そこを重点的に考えて、課題の解決策等を提案します。先ず、モデルケースとなるようなところを調査して、課題を検討します。また、区民の意識を高めるため、環境フェア等でのPR、ゴーヤで作ったグリーンカーテン、野菜や花の品評会、感謝祭、花ウィーク、グリーンウィーク等の開催、学校で米や野菜、菊などを育てる取組み、一家に一鉢運動、街路樹百選をめざす取組み等のキャンペーン、貸農園などを行って、区民の意識を高めていきたいと考えています。場所については、道路や公園、廃校の学校など、できるところから少しずつでも緑化するような場所を探して、提案します。緑には、癒し、美観の向上、情操教育、地域コミュニケーション、CO₂削減、空気の浄化、生物多様性、ヒートアイランド対策等の効果があります。そのためのPRとして、ホームページ、Fac</p>			

ebook、J・COMなどを活用したり、区報の空きスペースを利用します。また、学校、保育園、学童、緑と花の学習園、商店街や企業と連携して、様々なキャンペーン、イベントを開催します。

提言書は、どのようなイメージになるのか、文書が羅列されるのか、分野別に分けるのか、写真がメインになるのか、提言書の確認は本日が最終になるので、委員の方の納得を得たい。

前回の発表後、皆さんの意見を参考に取りまとめをした。写真はモデルケースの紹介に使う。

苗等を配付する時は、育て方を印刷した紙と一緒に配っている。また、育て方を教えるミニ講習会を行う時もある。

そのようなことも提言書に含めた方が良いのではないかと。

私の住んでいる北部地区は、路地裏が多い。道路が狭く、年配者が多い。20～30cmの空地でも植木を置く。環境条件は悪いが、緑に関して意識が高い。家の中にも緑が多くある。道路が狭く、消防車が入りづらいという火事リスクもあるが、路地裏空間を大切にもらって、緑を増やしてほしい。そのため、何故、空き教室や学校を使わないのか、ジャングルを作ったり、水を流したりしないのか。提言書には、理想論でも構わないので、それらのことも入れてほしかった。

土地の少ない墨田区で、緑を増やすことは容易ではない。路地裏園芸によって、側溝が詰まったり、災害時に影響を及ぼす恐れがあるため、嫌われる。そこで、路地裏園芸によってまち並みを美しくするような講習会を行うことの方が、現実味があるかもわからない。

路地裏園芸は、緑被率に反映されることはほとんどない、と考えてもらって構わない。そもそも、緑被率は都市計画の分野で計画的に緑を増やすために用いられた。現実的に緑を増やせそうなものとして、街路樹が揚げられるが、墨田区では、街路樹を大きく育てる意識がない。電線に引っかかりそうになると、直ぐに切ってしまう。落ち葉の問題が生じると、枝ごと切ってしまう。周辺区に比べ墨田区の街路樹は小さく、裸同然の状態。

現在、墨田区の緑被率は何%ぐらいなのか。

○墨田区の緑被率ですが、平成12年度は9.4%でした。平成25年度は想定ですが、10.9%に達していると推計されます。伸び率でいいますと、1.5%ほど伸びております。

続いて、提言の取りまとめ「ごみ」の発表をお願いします。

提言書は、区民会議のメンバーを含め、区民向けに作成しました。ごみ問題の初歩、入門の文書となっています。班の検討では、アルミ缶の持ち去りや公園のごみ、路上のポイ捨てが話題になりました。ごみ問題の本質は、消費されて捨てられるものを減らす低炭素社会に向けて、資源が循環される循環型社会の構築にあります。そこに近づくにはどのようにしたら良いのか。討論では深い話ができませんでしたので、事例を挙げて意見交換を深めていくことで、循環型社会に少しでも近づいていけるよう、頑張ろうという提言の内容となっています。

ごみの問題は、確かに難しい問題だと思う。私は古いものを捨てるのが好きで、家に置いてある。しかし、家族からはごみと言われる。建築の分野では、古い材木を削って、再利用したりする。消費者の見方を変えてもらおうと、捨てられるものが減ると思う。見方を

変えてもらいたい。

先程の「緑」でもそうだが、生活環境の路地裏を緑被率で捉えるのか、植物や木として捉えるのか、「ごみ」も資源として捉えるのか、リデュースやリユース、リサイクルの3Rで捉えるのか、二つの捉え方がある。提言についても、誰に提言するのか、自分たちでやるのか、次年度の問題だと思うので、リードをよろしく願いたい。

集団回収の回収方法は昔と違っている。以前は、主に町会単位で行っていて、トラックも手配できた。今は、車の手配は難しく、マンション等でストックして行っている。回収方法の見直しも必要ではないかと思う。

集積所は場所ごとに条件が違ってくる。大きなマンションでは、集積所が一つなので、集積所＝(イコール)集団回収となっているところもある。高齢者が増えて、自治会に力がなくなってくると、集団回収が難しくなってくる。集団回収では集める時に自治会等の立ち会いがあるので、持ち去り対策にもなる。本来のごみ問題からすると、仮にアルミ缶が持ち去られたとしても、リサイクルルートによって資源化されることになる。ただ、行政としては、ルール違反があるという行政課題が存在することとなる。

「ごみ」の提言については、この提言書どおりでよろしいでしょうか。何かご意見等がありましたらお願いします。何もなければ、この提言書どおりで決定いたします。最後に、提言のとりまとめ「水」の発表をお願いします。

水に関する提言の内容については、資料のとおりです。ただ、提言の発表だけで終わらせず、次年度は必ず行動に移すことが必要と考えています。

「水」の提言については、資料どおりでよろしいでしょうか。ご意見がなければ、これで決定いたします。次に、30ページからの10「私たちの活動のまとめ」です。

32ページの9行目に誤字。「とこどき」「ときどき」

すみだまつりにおけるアンケート調査の件ですが、せっかく同じ設問で平成25・26年度と続けて調査をしたので、集計結果については対比できた方が良かった。これから直せという事ではないので、来年度も同じ設問でアンケートを実施した方が良いと思うので、集計結果は対比できると良い。

すみだまつりにおけるアンケート調査の集計結果についてですが、2年間の回答の対比ができた方が良かったという意見が出されました。アンケートの設問の1～8については、2年間同じ設問を使っています。設問の9～11については、平成26年度に新たに追加されました。回答の中身ですが、回答数に違いはありますが、設問の1～7については、回答の割合はほとんど変わっていませんでした。大きく変わったのは、設問の8です。ただ、平成25年度は未回答という集計がありませんでしたので、未回答を除いて割合を出してみると、「自転車を放置したことがありますか。」の設問に対して、「ある」と答えた方が平成25年度は60%、平成26年度は15%、その割合が大きく下がっていました。また、「ない」と答えた方は、平成25年度が39%、平成26年度は84%でした。自転車の項目だけが大きく変わっていました。自転車に対する意識が相当変わってきていると、アンケートから読み取れると思っています。

何故、集計結果の対比が必要かという、その変化から、いかに区民の方に環境に関して意識を持ってもらえるよう、区民の方への働きかけを考える素材になると思ったからです。

回答の割合がほとんど変わらないことから考えられることは、すみだまつりに来る方は決まっているのではないかと思う。来る方は毎年来るが、新たな人は来ない。そこで、新たな人を呼び込む方法を考えた方が良いと思う。

回答の割合の変化から、この設問をしても無駄だ、必要がないというように、設問の精査をすることも出来る。

環境区宣言や墨田区の環境に関する活動を広く区民に知らしめることが、区民会議の一つの目的で、それができないと責任を果たしていないことになる。区民会議の意味がない。再度、区民会議の意味を考え直した方が良い。

アンケートはイベントではない。あくまで目的があって、その手段としてある。答えていただける区民の方にも非常に負担をかける。やる側も非常に労力を要する。そこで、何を知らるか、何が分かるか、それが非常に大事なこと。環境問題を推進するにあたり、現状を把握し、改善の道筋を協議することが、この区民会議の役割だと思って、参加している。すみだまつりでアンケートを実施するならば、そこから何を読み取るのか、区民の環境に関する意識を啓発するために何をやらなければいけないのか、もっと時間をかけて話し合わなければいけない。苦労して活動報告書をまとめているが、この活動報告書の骨は、P(計画)D(実行)C(点検)A(改善・実行)サイクルであって、それがないと次年度に結びついていけない。成果が見える区民会議にしていきたい。今期の感想として、すみだ環境フェア 2015 の環境マップづくり、すみだまつりでのアンケートの実施等、成果に繋がる部分だと思う。しかし、まだ成果は出ていない。これから、成果につなげていかなければいけない。環境マップを成果につなげていくためには、区民・事業者・行政が三位一体となって、協働していかなければいけない。そのコミュニケーションのツールとして有効に活用すれば、区民の方に墨田区の環境の現状について、身を持って理解していただけたらと思っている。アンケート調査についても、すみだまつりで2年間実施してきたので、墨田区の環境に対する活動を知ってもらい、区民の方の環境に対する意識を高め、墨田区を環境先進区に一步でも前進させるよう、来期につなげていかなければいけないと思っている。

今回作成する活動報告書は、ホームページで閲覧できるようにするのか。何部、作成するのか、どこに置くのか、閲覧方法はどのようになっているのか、教えてほしい。

○活動報告書は区長まで供覧することを予定している。作成部数はまだ決定していない。図書館等に、数部、情報提供をしていく。

環境関連施設にも置いてほしい。

区民会議では、2年間にいろんなことを盛り込み過ぎている。どこに中心を置いているのか、分からない。一つのことに集中して活動した方が良いと感じた。私は、「共創」の意味を、「共に創る」と思っていた。しかし、会議では、行政は外で眺めていた印象がある。行政と一緒に何かを創ろうという感覚でいたが、ドックランで遊ばされているような印象を持っている。行政と一緒にした方が良いと感じた。

すみだ環境共創区民会議の役割は、条例で決められている。その範囲は、とても幅広い。しかし、集まっている委員の関心はバラバラ。そこで、一つの目標に向かって進むことは、とても難しい。基本的には無理だと思うが、無理を承知ですみだ環境フェアやすみだまつりに参加している。そこで何かを見つけたら、新しい運動を起こすとか、新しいグループに参加するなどしか、逃げ道はない。すみだ環境共創区民会議は、半官半民なので、

無理な部分がある。できれば、新しい仲間を作ってほしい。

省エネ生活報告について、私は報告書を提出していなかったのですが、取りまとめの時はあまり発言しませんでした。この報告書では、2年間の電気とガスの使用量の比較しかできない。東京電力では、すみだ環境フェア等で照会されている「電気家計簿」という取り組みを行っており、私も取り組んでいます。電気家計簿は、一般的な家庭の電気使用量との比較が出来るので、省エネ生活報告に取り入れた方が良い。

省エネ生活報告は、自分たちの生活を評価するものなので、電気家計簿との比較をするならば、事例として自らが取り入れていけば良いと思う。

普通の企業では、消費者に商品等を買ってもらうよう努力をしているが、東京電力については、太陽光発電の再生可能エネルギーの問題等、少し事情が違う。そこで、原子力発電等の問題も含めて、すみだ環境共創区民会議で半年に1度程度、説明していただくと勉強にもなるのでお願いしたい。

ガスについて、最近、エネファームの価格が非常に安くなってきた。しかし、電気と一緒に作り出すお湯の使い道は限られている。そのお湯は飲むことができない。技術的に可能であれば、水対策になる。以前、東京ガス千住テクノステーションの見学をしたが、エネファームは、集合住宅等で使用して、地域冷暖房として活用するとの話を聞いた。今回、水に関する提言を取りまとめたので、東京ガスで、何かPRすることが有れば、教えてほしい。

エネファームは、お湯を作るときに発電するので、大人数の家庭で、お湯をたくさん使う時に発電する。一人・二人でシャワーのみですと、お湯は溜まりっぱなしで発電しない。災害時には、停電で水が止まっても、タンクに残ったお湯を使うことができる。容量は140リットル程度あります。

省エネ生活報告の平成26年度の感想に、「あまり無理すると、生活がつまらなくなる」とある。「生活がつまらない」という所が気になる。生活がつまらなくなるというような心の持ち方ではなく、節約しても、貧乏でも、お金持ちでも、何故、心に豊かさを持たないのか、持てないのか、そこが問題だ。今はパソコンやゲームを持っていても、それらは豊かさとは違うと思う。「環境」とか「共創」という言葉はとても難しいが、「環境」とは、周りの環境だけではなく、心の中にあるものも含まれると思う。「生活がつまらない」などと思わないでほしい。孤独感を感じ、とても寂しく思う。

前期の委員の方で、節約は嫌だといった方もいた。節約ばかりしていると、景気も良くならない。節約ではなく、エネルギーで言えば太陽光発電に転換するとか、世間一般的にはそういう流れで、低炭素社会を目指していく方向になっている。今、ここにいる方でも、太陽光パネルを設置できる住宅事情にない方がほとんどだと思いますので、できるところで、省エネ生活報告を行っている。

今、色々意見が出されましたが、提言に繋がる糸口がたくさんありました。本来であれば、このような話し合いが、忌憚なく行われ、提言に結びついていくことが本来のスタイルだと思います。来期は、そのような会議になると良いと思います。

所 管 課

区民活動推進部 環境担当 環境保全課 環境管理担当 内線 5463